

学校教育自己診断アンケート 2017 分析（第 1 版）

Ⅰ 今年のポイント ①診断ポイントを分野別（学校体制、教員対応、生徒指導系、学務系）に分けて分類。

②保護者への通達は郵送とし、保護者のアンケート参加率をアップさせた。

Ⅱ 自己診断アンケートを巡る情勢 ①条例による義務化。

②結果から課題の克服策を打ち、結果を再びアンケートで問うことの義務化

③ホームページで公開することの義務化（2016 年度のアンケートは結果 UP 済）

Ⅲ 回収数 **保護者の提出率が 11.8p 上昇、過去最高の 41%に。**

これまでは担任レベルで提出者を確認し未提出者に督促することがなかったが、試み的に督促し提出を促した。その結果、過去 30%を超えたことが無かったが、41%となった。

50%を超えることとなれば、保護者のアンケート結果について、学校として考慮すべき数値となってくる。

		2017 年度		2016 年度		2015 年度		2014 年度		2013 年度		2012 年度	
生徒	提出数	763		790		746		673		665		691	—
	在籍数	835		820		786		749		706		739	
	提出率	91.4%	-4.9p	96.3%	+1.4p	94.9%	+5.0p	89.9%	-4.3p	94.2%	+0.7p	93.5%	
保護者	提出数	342		245		172		171		219		146	—
	在籍数	835		820		786		749		706		739	
	提出率	41.0%	+11.8p	29.2%	+7.3p	21.9%	-0.9p	22.8%	-8.2p	31.0%	+11.2p	19.8%	
教員	提出数	58		60		45		46		45		47	—

Ⅳ 全体の特徴 **生徒評価は 2014 年度に底を打って以降、上向き。保護者評価もプラス傾向を維持。**

大阪府の基準でプラス評価の比率を表にすると以下の通り。 府教委基準の評価 $P=(A+B)*100/(A+B+C+D)$ 単位%

府教委基準 の評価 P	2017 年度		2016 年度		2015 年度		2014 年度		2013 年度		2012 年度	
	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比
生徒	71.8	+1.8 p	70%	+3p	67%	+14p	53%	-6p	59%	+7p	52%	—
保護者	80.6	+0.6 p	80%	-1p	81%	+10p	71%	+2p	69%	+5p	64%	—
教員	60.9	-5.1 p	66%	± 0	66%	-3%	69%	± 0	69%	+1p	68%	—

全体としての肯定的評価は生徒、保護者とも安定してきている。

特に保護者からの信頼度が 80%を超えて安定しているのは、学校への信頼を示す数値となっている。

その根拠に学校と保護者との意思疎通、更に指導への信頼があるといえる。

25 学校では子どもに関する個人情報を守られている。95% 24 学校が保護者に出す文書・事務連絡などは適切である。94% 30 懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている。90% 7 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる。87% 8 先生は子どもの間違った行動を正しく指導してくれる。87% 26 学校は教育情報について提供の努力をしている。87% 9 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 86% 2 学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。83%

今後も、家庭との意思疎通を密にすることが学校・家庭で連携して生徒を育てる教育に繋がると考える。

V 個別的内容

(1) 「分かる授業」を目指した改善努力によりプラス傾向を維持。2012年度の結果、「分かりやすい授業」が焦点化した。2014年度生徒アンケートで-10pt超の10項目のうち、7つが授業の関連項目だったので2015年度の学校方針に「わかる授業」を据えた。同じ2015年度の大阪府教委の重点方針に「わかる授業」が位置づけられ、以降の継続的な改善努力が数値に表れている。今後も継続的に努力をすることが必要である。

(生徒) プラス評価の割合(%)	2017	2016	2015	2014	2013	2012
33. 他の先生が授業を見学に来ることがある。	75	79	74	54	58	47
32. ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある。	74	72	65	51	59	55
19. 環境、国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある。	71	67	66	48	52	52
6. 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	66	58	58	46	50	43
7. 教え方に工夫をしている先生が多い。	65	62	59	48	53	37
4. 授業は分かりやすい	61	63	61	47	56	33
8. 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	60	62	58	49	51	48
5. 授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。	58	43	37	38	51	31

(保護者) 4. 子どもは授業が分かりやすいと言っている。	57	52	56	39	41	34
-------------------------------	----	----	----	----	----	----

(2) どの子にも親身になって関わっているか、を意識しながら、対応すること。

(生徒) プラス評価の割合(%)	2017	2016	2015	2014	2013	2012
1. 学校に行くのが楽しい。	72	72	70	62	68	65
3. 先生は生徒の意見を聞いてくれる。	67	67	59	46	53	50
14. 学校生活についての先生の指導には納得できる。	58	53	50	38	41	35

11 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。+10P (2017-2016) 13 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。+8P (2017-2016) 14 学校生活についての先生の指導には納得できる。+5P (2017-2016)

2016年度に1.2.3年生の女子、および1.2年生の男子について、いじめや悩みについての、設問で、学校への信頼について、低いポイントであった上記3項目について改善が見られている。

VI 今後 (1)学校の最重点目標として 「分かる授業」の創造 を据えることの確認、教育力の投下と継続

大阪府教委から指示されるまでもなく、更に強めていく、継続する必要がある。

(2)校内の必要な組織で、最重点目標に沿っての具体的な課題と次年度の方針を議論、確定する。

特に以下。女子生徒の指導について、信頼関係を構築し、指導することに継続して注意をほらう。

